

「水増し」なし!! 200高校×14私大「裸の」入学者数/板挟み高砂親方

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 読売新聞社 電話(03)5561-0101

2007.9.16  350円

# 読売

Yomiuri Weekly

# ウィークリー



〈図解〉安倍の対「党内」「民主」封じ込め  
「水増し」なし!! 早慶など14私大別  
200高校「裸の」入学者数  
板挟み...高砂親方は協会の「中間管理職」!?

「ドラマな表紙」成海璃子

人間さま同様に長寿化ゆえ

# 「有料老犬ホーム」日光に登場

飼い主が飼えなくなったペットを、代わりに終生にわたって世話をする施設が  
栃木県日光市にオープンした。老人ホームならぬ「老犬ホーム」である。  
広さは、なんと10万平方メートル。どんな場所か、訪ねてみた。本誌 森かおり／撮影 島崎哲也太

JR宇都宮駅から日光線で30分。下野大沢駅からタクシーで森林の中の道を抜けると、山小屋風のクラブハウスが見えた。犬や猫の終生ケアサービスを行う「ペットリゾートカレッジ日光」である。

運営する「ペットリゾートカレッジ」（東京・西新宿、正宗伸麻社長は、ペット販売会社「ワンニヤン村」がグループ会社として昨年、設立した。長年培ったノウハウを生かしてペットの長・短期間預かりのほか、里親探しの代行、しつけトレーニングなど、飼い主のニーズに応じたさまざまなサービスを提供する。ドッグランなどの施設は日帰り利用もできる。

正宗社長は、開業の理由をこう説明する。

「ペットの終生ケアは、個人が善意で行っていた例はありますが、ビジネスとして本格的な施設を

つくって行うのは、初めてだと思います。サービスや値段設定など、前例がなく手探りですが、ペットが長寿化している昨今、転勤など飼い主の生活変化も激しいこともあり、ニーズは高まっています」

## 入所審査あり

入所を希望する飼い主は、ペットの病歴や性格、しつけの状態、手放す理由などを規定の履歴書に記し、審査を受ける。入所が決まると、飼い主は所有権は持ちながら、施設に飼育を委託するわけだ。施設が対応するのは、介護まで。病気が悪化した場合、提携する医療施設に入院させる。治療は飼い主の了承後に行われ、その実費を飼い主が負担する。飼い主への連絡は月1回程度、メールや手紙などで行われる。

正宗社長は、こうも言う。

「ペット販売会社として「売りっぱなしでいいのか」という業界批判が強いことも、今回の事業を始めるきっかけです。これからの時代、「ペットの命に責任を持つ」という理念がなければ、愛犬に一生を全うさせたいという飼い主の思いを受け止める場にしたい」

平屋建てのクラブハウスの後ろに、芝生を敷き詰めた広場と森が広がる。10万平方メートルという敷地面積は、東京ドーム2.3個分。山一つ丸々整備した。木立が美しい「ふれあい広場」のほかに、約3000、2000、900平方メートルの三つのドッグランがあり、飼い主と犬が散策できる遊歩道や展望台もある。

屋内に目を転じると、クラブハウスには、犬や猫たちが暮らす約100平方メートルのペットルームや室内トレーニングルーム、グルーミングルームなど。変形トレーニングルームは、約180平方メートル

広さだ。

ペットルームではコーギーら犬

2頭がケージでくつろいでいた。

1頭当たりのスペースは小型犬

が90×60センチ、中型犬は120×90

センチ、大型犬は畳1畳分程度。犬

約30頭を収容できる。4人が世話をする。いずれ別棟を設け、200頭まで広げたいという。

料金は里親探しの場合、1頭当たり15万円、終生ケアプログラムサービスは委託料として1年間ごとに小型犬が60万円、

中型犬が75万円、大型犬

が100万円。5万円の保証金も必要だ。

宇都宮市から来て、2歳になるブルドッグを広場で遊ばせていた夫婦は、

「すごくいい環境。まだ先のことですが、老犬ホームという施設には興味があります」。

8月にプレオープンし、既に犬3頭、猫2匹を預かっている。問い合わせや相談は、東京、横浜、大阪など全国から入る。

「自分が長期入院する」

同施設職員は、

「この方も切羽詰まった状態で連絡してきます」



山小屋風のしゃれた雰囲気のクラブハウス。有料金次第では広いスペースでの飼育も（ペットリゾートカレッジ日光・クラブハウス内のペットルームで）



3万坪という自然豊かな環境の施設  
(ペットリゾートカレッジ日光で)



と明かす。「分譲マンションで犬を飼っていたが、規則変更でペット禁止となり、愛犬と出て行くか、愛犬を里子に出すか選択を迫られ、里親を探したが見つからない」「自分が病気で入院することになったので長期間になるが預かってほしい」など。電話は鳴りっぱなしだ。

同県那須塩原市にも今年6月、獣医師による24時間対応のペット専用介護施設「ペットのこから」ができた。同市の遠藤大猫病院(遠藤薫院長)とペットの健康相談サイトが設立した。介護サービスを主としており、原則として高齢犬が対象だ。料金は1か月あたり、小型犬が9万8000円、中型犬が12万円、大型犬が15万5000円という。

こうしたペット施設は、なぜできたのか。環境省動物愛護管理室は、こう話す。「ペットホテルは最近増えているが、1年以上を想定した長期間預かる施設は聞いたことがない。ペットの高齢化に伴い、老犬ホームのようなビジネスは今後も出てくるだろう。「かわいくななくなつた」などと保健所に持ち込んで

だり、捨てたりすることを防ぐ一助になれば」動物愛護管理法では遺棄を犯罪と定め、罰金50万円が科せられる。だが、環境省の調査では、保健所などに収容されて処分される犬や猫は、毎年42万頭に上る。同省では、ペットの遺棄防止のため、個人情報や飼い主の連絡先が入力されたマイク

ロチップ(MC)の装着普及をペット業界に呼びかけているが、効果はこれからの段階だ。ペットが高齢となり、「介護に手間がかかる」などの理由で、捨てたり、保健所に持ち込んだりする人も多いという。

03年の東京農工大の調査によると、平均寿命は犬が11・9歳で、猫は9・9歳。12年前に比べ、犬は3歳以上、猫はほぼ2倍に長寿になった。飼い主が、室内の快適な環境で飼い、栄養に気を配り、病気になるれば、動物病院で診てもらい、パートナーとして大事に育てた結果だ。

そのため、飼い主の間では現在、「シニア犬」の介護問題が大きな関心事だ。犬は7〜8歳くらいから、病気にかかりやすくなる。老犬の介護方法を解説した本が書店の棚で、大きなスペースを占めている。

財団法人・日本動物愛護協会は、老犬ホームについて、

「終生ケア施設は捨て犬猫防止の一つの方法として評価できるし、需要はあると思う。しかし、犬にとっては、苦しくても信頼する飼い主の元で穏やかな時間を過ごすことが一番。いろいろな事情があると思うが、飼い主は犬にとって何が一番かを考えてほしい」

とコメントする。老犬ホーム、実は重い問題である。